

光星学院と中国の語学学校 姉妹校協定

協定書を取り交わした法官新一理事長（右）と王精誠副校長（左）19日、八戸学院大



八学大に留学生

八戸市の学校法人「光星学院」（法官新一理事長）は19日、中国の語学学校「陝西現代日韓語職業培訓学校」と姉妹校協定を締結した。同法人グループの八戸学院大・同大短期大学部とも同日、同校とそれぞれ連携協定を結んだ。協定の第1弾として、今年4月に同校からの留学生3人を八学大で受け入れる予定。

同校は2003年、中国陝西省の西安市で開校。日本語と韓国語を中心に外国語を学べる私立の語学学校で、約3千人の生徒が在籍する。協定は、学生と教職員の人的交流や施設設備の相互利用など。4月から八学大が受け入れる留学生3人は、健康医療学部や学部生と地域経営学部との研究生と

して所属し、少子高齢化と健康に関する講義や研究を行うという。

同日、同大で行われた締結式では、法官理事長と同校の王精誠副校長が協定書に調印。法官理事長は「中国の歴史の中心地である西安市に立地する同校との連携は、私たち法人の財産で

あり、大きな期待を持つている」、王副校長は「協定に基づいて相互に手を携え、地域の美しい未来を共につくり上げていく」と協定締結の意義を強調した。王副校長ら一行は同日、デーリー東北新聞社を訪れ、荒瀬潔社長と懇談した。（須田山裕太）